第115回汽水域懇談会

高知県沿岸に生育する大型褐藻ホンダワラ類の分布変化について

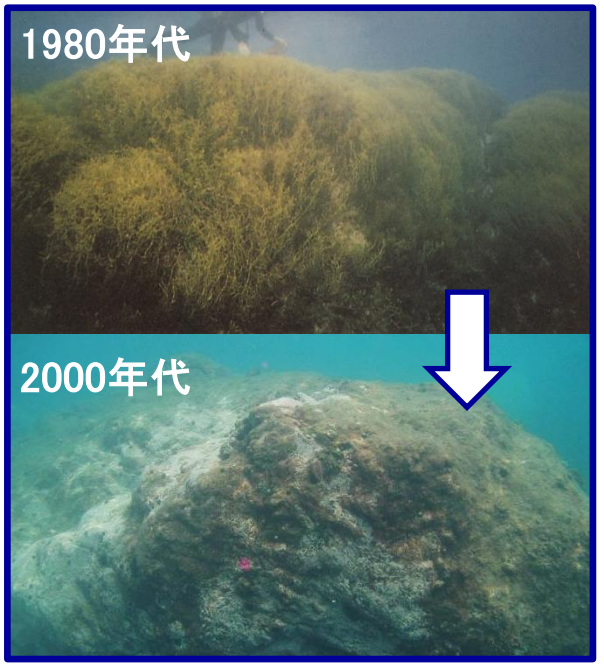
話題提供者: 原口展子
（島根大学汽水域研究センター特任助教）

日時: 2015年6月25日（木）17:00～18:00

場所: 島根大学汽水域研究センター2階セミナー室（201）

【発表概要】

ホンダワラ類は，褐藻綱ヒバマタ目に属する大型海藻で，沿岸岩礁域にガラモ場とよばれる海藻群落（藻場）を形成する。ガラモ場は，沿岸生態系を支える重要な役割を果たしているが，近年，ガラモ場の衰退や種組成の変化が指摘されるようになった。高知県沿岸では，このような現象が顕著に生じており，1990年代以降，温帯性種の衰退とともに，熱帯性種が優占して繁茂するようになった。また，既存の温帯性種の季節消長は，30年前に比べ，成熟時期などにズレが生じていることもわかった。これらの変化は，90年代以降の水温上昇に大きく関係していることが示唆された。今回の発表では，分布変化の事例とともに，培養実験の結果も踏まえて，高知県沿岸のガラモ場の現況について紹介する。



上図: 分布を拡大する熱帯性ホンダワラ類
下図: 衰退した温帯性ホンダワラ類（Kimura et al. 1987を一部引用）